

各プロジェクト一覧表

No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況				プロジェクトの目標	担当部局	
			第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成26年3月末時点(予定)					平成26年度の実施予定
				場所	実施状況	備考			
1	深掘跡の埋め戻し	浚渫土砂等を有効活用し、青潮の発生要因のひとつとされている深掘跡の埋め戻しを行う。	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを実施 埋め戻し量約1,500万m ³ (平成15年度～平成23年度)	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを実施した。 約400万m ³ (平成24年度～平成25年度)		海上工事により発生した良質な土砂による深掘跡への埋め戻しを実施する予定	達成量	千葉県	
2	干潟・浅場等の保全・再生・創出	水質改善や生物多様性の確保に資する干潟・浅場等の保全・再生・創出を行う。	東京湾内の3カ所において、全8.5haの浅場・緑地・磯浜・藻場を再生・創造するとともに、モニタリングにより効果を検証 (平成18年度～平成24年度)	東京港中央防波堤沖	平成18～23年度に造成した磯浜(3.0ha)のモニタリングを実施した。(平成25年度)		引き続き同地区で、平成26年度までモニタリングを実施する予定。	再生・創出された干潟の造成面積:10ha以上	東京都
3	覆砂	浚渫土砂等を有効活用し、底質の改善を目的とした覆砂を行う。	東京湾奥部(浦安沖)において浚渫土砂を活用した覆砂を実施、覆砂後モニタリングを実施 覆砂約450,000m ³ 、覆砂面積約45ha (平成17・18年度)、モニタリング(平成19～23年度)					覆砂された面積:50ha以上	共通
4	生物共生型港湾構造物の整備・改修	生物と共生する港湾構造物の整備を行う。	東京湾内の4カ所において、生物付着を促進する港湾構造物等を整備するとともに、モニタリングにより効果を検証 全整備延長2,215m、再生された干潟・藻場等の面積13.9ha エアレーションの導入等に関してで高濃度酸素水発生装置による実海域実験を1カ所で行った。 (平成15年度～平成24年度)	横浜港京浜地区	生物共生型護岸の最上及び中段部に、造成砂(50m ³)の投入を実施した。(平成25年度)		人工干潟部に実験用環境改善資材(数種類)の投入・設置を実施する予定。	生物共生型港湾構造物の整備数:5カ所	関東地方整備局港湾空港部
5	浚渫土砂等の高度利用の推進	浚渫土砂や建設副産物(スラグ等)の高度利用に向けた施策を推進する。	横浜港金沢地区で、浚渫土砂と一部潜堤にスラグを混合した人工石を活用した浅場・藻場造成を実施するとともに、モニタリングにより効果を検証 浅場造成 0.8ha(平成21年度)、モニタリング実施(平成22～24年度)	富津市富津地区	東京外かく環状道路の千葉県区間より発生する土砂を使用し、富津沖に存在する窪地の埋戻しを試験的に実施した。 また、工事実施中の水質調査や、底質・底生生物調査等の環境調査を実施した。(平成25年度)		引き続き、埋戻しと環境調査を実施する予定。		関東地方整備局港湾空港部
6	NPOや企業、漁業者等による藻場等の造成の推進	NPOや企業、漁業者等による藻場等を造成する際の支援等を行う。	(第2期計画から記載)	横浜港金沢区白帆地区	公共水域を開放し取組に参加する企業を募集し、藻場の再生を行った。(平成25年度)		各自治体が管理している水域を企業に開放し、藻場等の再生に取組む企業等の募集を検討・展開していく。 引き続き、横浜港金沢区白帆地区の海浜を開放し、官民連携して、藻場の再生に取り組んでいく。	6カ所以上で実施	関東地方整備局港湾空港部 横浜市
7	臨海部企業が有する護岸の改修に対する技術的支援・助言	臨海部企業が所有する護岸を改修する際に、環境機能を付加させる技術的支援・助言を行う。	(第2期計画から記載)		生物共生型港湾構造物の整備に関する技術的ガイドラインを策定した。(予定)(平成25年度)		ガイドラインによる支援助言を行う。	10社以上で実施	国土交通省港湾局
8	汚泥浚渫	底泥から溶出する汚濁物質の低減を図るため、底泥の除去を行う。	東京湾全体で、汚泥浚渫を約308,300m ³ 、覆砂を約10,700m ³ 、約2.1ha実施するとともに、モニタリングにより効果を検証(平成15年度～平成23年度)	東京港 ・江東地区 ・芝浦地区	汚泥浚渫を約32,000m ³ 実施した。(平成24年度) 汚泥浚渫を約47,000m ³ 、覆砂を約2,000m ³ 、約0.3ha実施した。(予定)(平成25年度)		両地区で、汚泥浚渫を約59,000m ³ 実施する予定。	汚泥の浚渫土量:30万m ³ 以上	東京都

各プロジェクト一覧表

No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況				プロジェクトの目標	担当部局	
			第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成26年3月末時点(予定)					平成26年度の実施予定
				場所	実施状況	備考			
9	浮遊ゴミ等の回収	海面を浮遊するゴミ・油について、海域環境整備船等にて回収を行う。	約20隻の清掃船等により東京湾全体で、浮遊ゴミを約74,867m ³ 、油を4m ³ 回収(平成15年度～23年度) 海洋短波レーダによる浮遊ゴミ回収システムを開発(平成17年度～20年度) 赤潮回収技術及び回収装置の開発を検討(平成15年度)	東京湾	浮遊ゴミを139.4m ³ 回収した。(平成24年度) 浮遊ゴミを125.4m ³ 回収した。(平成25年度)		引き続き清掃船によるゴミ回収を実施する。 海洋短波レーダを活用したシステムを改修し、作業効率の向上を図る	浮遊ゴミ・油回収量:達成量	関東地方整備局港湾空港部
				千葉港 木更津港	清掃船により浮遊ゴミを2,344m ³ 回収した。(平成24年度) 清掃船により浮遊ゴミを3,142m ³ 回収した。(平成25年度※H26.1まで)		引き続き清掃船によるゴミ回収を実施する。		千葉県
				川崎港	清掃船により浮遊ゴミを375.25m ³ 回収した。(平成24年度) 清掃船により浮遊ゴミを310.25m ³ 回収した。(平成25年度※H26.1まで)				川崎市
				東京港	清掃船により浮遊ゴミを2,071m ³ 回収した。(平成24年度) 清掃船により浮遊ゴミを1,604m ³ 回収した。(平成25年度※H26.1月まで)		引き続き清掃船によるゴミ回収を実施する予定。		東京都
				横浜港	清掃船により浮遊ゴミを1,447m ³ 回収した。(平成24年度) 清掃船により浮遊ゴミを1,496m ³ 回収した。(平成25年度)		引き続き清掃船によるゴミ回収を実施する。		横浜市
10	NPOや企業、漁業者等による海底ゴミの回収や海浜・干潟の清掃活動の推進	NPOや企業、漁業者等による海底ゴミの回収や海浜・干潟の清掃活動を推進する。	海底ゴミの回収や清掃活動をのべ41回開催、のべ11,822人が参加、44.3tのゴミを回収(平成15年度～23年度)	横須賀港新港地区、浦賀地区及び久里浜地区	海面浮遊ゴミの清掃活動を6/15、7/15の2日間開催し、23人参加、2.2m ³ のゴミを回収した。(平成25年度)		引き続き、NPO法人との協働作業を実施する。	清掃活動等のイベント回数 および市民参加延べ人数: 45回、1万3千人	関東地方整備局港湾空港部
				東京港お台場地区	鳥の島海浜清掃を開催し、99人参加、0.2tのゴミを回収した。(平成24年度) 鳥の島海浜清掃を開催し、67人参加、0.3tのゴミを回収した。(平成25年度)		引き続き、イベントの活動を主催する。		
				川崎港東扇島地区	東扇島クリーン大作戦を開催し、205人が参加し清掃活動を実施し、約4tのゴミを回収(平成24年度) 東扇島クリーン大作戦を開催し、231人が参加し清掃活動を実施し、約6tのゴミを回収(平成25年度)		引き続き、イベントの活動に参加する。		
				東京港 ・お台場海浜公園 ・城南島海浜公園	ボランティアによる海浜清掃を開催し、2,345人参加、2.3tのゴミを回収(平成24年度) ボランティアによる海浜清掃を開催し、1,636人参加、2.6tのゴミを回収(平成25年度)		引き続き同イベントを開催する予定。		
				横須賀港走水地区	近隣の小中学生を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を平成24年7月7日に開催し、約240人参加、260kgのゴミを回収(平成24年度) 近隣の小中学生を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を平成25年7月13日に開催し、約264人参加、150kgのゴミを回収(平成25年度)		継続してイベント活動を実施する。		
横浜港山下地区	平成24年10月21日に開催し、252人参加、1,020kgのゴミを回収(平成24年度) 平成25年10月20日に開催し、130人参加、1,200kgのゴミを回収(平成25年度)		引き続き、イベントの活動を支援する。	横浜市					

各プロジェクト一覧表

No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況				プロジェクトの目標	担当部局	
			第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成26年3月末時点(予定)					平成26年度の実施予定
				場所	実施状況	備考			
11	貧酸素化緩和技術の検討	貧酸素化緩和の調査研究・技術開発を推進する。	千葉港千葉中央地区において、高濃度酸素水発生装置を用いた水・底質改善を実施 (機械の製作・設置(平成21年度)、モニタリング実施(平成22～24年度))	東京湾	東京湾の流況・水質を再現し、貧酸素化緩和技術の評価等、将来環境予測を行うため東京湾全体のシミュレーションモデルの構築を進める。(平成25年度)		継続してプロジェクトを進めていく。	-	関東地方整備局港湾空港部
12	ブルーカーボンの調査研究・技術開発の推進	海洋(沿岸域)における炭素固定(ブルーカーボン)の調査研究・技術開発・活用方策検討を推進する。	横浜ブルーカーボンに関する検討委員会やシンポジウム、啓発イベント等を開催(平成22年～)。 八景島シーパラダイスで、ブルーカーボンに関する実証実験を実施 (平成23年～24年)	横浜港	横浜ブルーカーボン事業によるカーボン・オフセット制度の導入を目指し、社会実験計画を立案した。 シンポジウムや啓発イベントを開催予定。		社会実験を実施する。シンポジウムや啓発イベントを開催する。	-	横浜市
			ブルーカーボンに関する定量評価の確立に向けた調査研究を実施 (平成24年～)		ブルカーボンに関する定量評価の確立に向けた調査研究を実施した。		引き続きブルカーボンに関する定量評価の確立に向けた調査研究を推進する。そして、計測手法に関するガイドライン案を作成する。	-	国土交通省港湾局
13	生態系サービス(海の健康度)の定量化手法の開発	沿岸域の環境の価値を定量的に評価する手法の開発	(第2期計画から記載)				港湾域における環境の定量的評価(海洋健全度指数)に関する調査を実施する。	-	国土交通省国土技術政策総合研究所
14	自然エネルギー等の活用検討	風力や波力等の再生可能エネルギー、また海藻等のバイオマスエネルギー等の活用検討を行う。	風力等自然エネルギーの導入及び利活用について検討を実施 (平成23年度)		有識者等・関係者による委員会を開催し、港湾エリアへの洋上風力発電の設置許可手続を港湾管理者が円滑に進めるために必要な技術ガイドラインの検討を開始した。		港湾エリアへの洋上風力発電の設置許可手続を、港湾管理者が円滑に進めるための技術ガイドラインを策定する。	-	国土交通省港湾局 国土交通省関東地方整備局港湾空港部
15	漁業・漁場を取り巻く環境整備の検討	東京湾の江戸前の魚介類が豊富に存在するための環境整備を検討する。	(第2期計画から記載)					-	
16	環境教育・体験活動等の推進	東京湾の自然環境を活かした環境教育・体験活動等を行う。	(第2期計画から記載)	横浜港白帆地区	東京湾各地において、マリンレジャー普及を図るため、UMI協議会参加団体がボート試乗体験や釣り体験等のイベントを開催、出展した。(計10件)	UMI協議会・マリンレジャー関連団体により構成される協議会であり、国土交通省海事局と連携して活動を実施。	引き続き同イベントを開催する。	達成量	国土交通省海事局
				川崎港東扇島地区	東扇島公園内の干潟の活用について検討を実施した。(平成25年度)		東扇島東公園内の干潟を活用した、環境学習等を本局、川崎市と協働した「UMI70」の一環として実施できるよう検討する。		関東地方整備局港湾空港部
				横須賀港	7/20、7/21「Save the Beach in 横須賀」(横須賀市うみかぜ公園)にてゴミ回収活動状況をブース展示した。 また、活動状況を事務所HPに掲載した。(平成25年度)		引き続き、NPO法人との協働作業を実施する。		
				横浜港京浜地区	生物共生型護岸を活用して大学等が環境調査・自然体験活動を実施した。(平成23～25年度)		引き続き環境調査・自然体験活動を実施する。		
				東京港 ・お台場海浜公園 ・海の森	お台場海浜公園では、地元の小学校を対象に、のりづくり体験学習イベントを、小学校PTA、NPO、地元区と協働して3回開催した。 海の森では、一般市民、企業を対象に植樹イベントを2回開催した。(平成25年度)		引き続き同イベントを開催する予定。		

各プロジェクト一覧表

No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況				プロジェクトの目標	担当部局	
			第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成26年3月末時点(予定)					平成26年度の実施予定
				場所	実施状況	備考			
17	東京湾再生官民連携フォーラム(仮称)による活動	東京湾再生官民連携フォーラム(仮称)による活動を行う。	(第2期計画から記載)	東京湾	東京湾再生官民連携フォーラムが設立された。設立にあわせて東京湾大感謝祭が開催され、一般の方々へ東京湾への関心を喚起するとともに、「指標検討」「モニタリング推進」「生き物生息場づくり」「江戸前ブランド育成」「東京湾大感謝祭」の5つのPTが始動した。		PTの活動が進められるとともに、フォーラムでの意見やPTの検討成果がとりまとめられ、東京湾再生推進会議へ提案される。	-	共通